

巻 頭 言

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

附属中等教育研究センター

センター長 植 田 健 男

前任の松下晴彦教授の後を継いで、中等教育研究センターのセンター長を務めることになって三年間が経ちました。最初の二年間は、附属学校担当の副学部長(副研究科長)を兼務しつつ、また、二年目からは東京大学の大学発学校支援プロジェクト (CoREF) の受託事業を中途から引き受け、中等教育改善実践支援に取り組みつつセンター業務を進めてきました。

さて、ここにセンター紀要第十三号をお届けさせていただきます。

今回は、二本の個別論文と報告から構成されています。決して、十分とは言えないと思いますが、この一年間の中等教育研究センターの活動や研究の成果を反映したものになっているかと思っておりますので、ご批評のほど宜しくお願い致します。

附属学校をめぐる状況は、着実に変わってきました。名古屋大学全学教育科目・基礎セミナーへの附属高校生の参加は来年度で五年目を迎えますし、名古屋大学との短期集中型高大連携企画である中津川セミナーも四年目を迎え、「名大型高大連携」とも言うべき取り組みは、いよいよ本格的なものとなりつつあります。また、一昨年度にユネスコ・スクールの認証を受けて以来、名古屋大学のG30 (グローバル・サーティ) に連携した企画は飛躍的に発展し、国際化についてもこれまでになかった新たな展開が見られるようになってきています。このように附属学校がこれまで蓄積してきた豊かな中等教育の成果をもとにして、名古屋大学とどのようなかたちで実質的な高大連携を築き上げ、高等教育にいかなる貢献をしていくのかが問われています。

中等教育研究センターは、普遍的な中等教育の問題だけでなく、まさに私たちの手元にある中等教育機関である附属学校の具体的な事例を通して、教育・研究活動を展開していくことが求められています。

この四月からは、教育学部附属中学・高等学校の校長である大谷尚教授にセンター長を引き継いで頂くこととなります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。